

米国 特殊要因で縮小したものの高水準の貿易赤字持続 (06年2月貿易統計)

発表日：06年4月12日(水)

～対中貿易赤字が旧正月の影響で大幅に縮小～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

 (03-5221-5001 : seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

貿易収支 (U. S. International Trade in Goods and Services)

	貿易収支			輸出		輸入			
	Balance	財 Goods	サービ Services	Exports	財 Goods	Imports	財 Goods		
05/02	▲601.14	▲645.20	+44.06	▲0.8	(+9.7)	▲1.2	+0.6	(+16.8)	+0.9
05/03	▲537.44	▲586.74	+49.30	+1.4	(+7.9)	+1.2	▲3.1	(+10.1)	▲3.7
05/04	▲576.18	▲620.97	+44.79	+2.8	(+11.8)	+4.2	+4.3	(+14.3)	+5.0
05/05	▲559.72	▲605.64	+45.92	▲0.0	(+9.5)	▲0.1	▲1.0	(+11.3)	▲1.2
05/06	▲591.29	▲636.11	+44.82	+0.1	(+12.2)	+0.1	+2.0	(+10.5)	+2.3
05/07	▲573.55	▲623.21	+49.66	+0.9	(+10.9)	+0.7	▲0.5	(+11.2)	▲0.5
05/08	▲584.62	▲638.44	+53.82	+1.6	(+12.3)	+2.2	+1.7	(+10.7)	+2.3
05/09	▲655.85	▲711.04	+55.19	▲2.3	(+8.5)	▲4.2	+2.8	(+14.7)	+2.9
05/10	▲678.36	▲729.38	+51.02	+1.4	(+9.0)	+2.4	+2.1	(+13.7)	+2.5
05/11	▲644.62	▲693.51	+48.89	+1.7	(+10.7)	+2.8	▲0.9	(+10.2)	▲1.0
05/12	▲650.74	▲701.41	+50.67	+2.2	(+9.7)	+2.5	+1.7	(+12.9)	+1.9
06/01	▲685.87	▲735.44	+49.57	+2.5	(+12.0)	+3.1	+3.6	(+14.0)	+3.9
06/02	▲657.42	▲700.76	+43.34	▲1.2	(+11.5)	▲1.4	▲2.3	(+10.7)	▲3.0

(注1) 季節調整値。貿易収支の単位は億ドル。

(注2) 輸出入の数字は前月比。カッコ内は前年同月比。

	輸出				輸入					
	産業資材 *1	資本財 *2	自動車 *3	消費財 *4	産業資材	資本財	自動車	消費財		
05/08	+2.7	+1.1	+3.8	+4.4	▲0.3	+2.2	+4.9	+0.4	+6.0	▲0.6
05/09	▲4.3	▲5.8	▲7.4	▲0.3	+4.1	+2.9	+6.7	+1.1	▲3.6	+2.7
05/10	+2.1	+0.3	+6.2	+2.0	▲5.6	+2.5	+6.3	▲0.5	+3.8	+0.9
05/11	+2.8	+2.3	+3.8	+2.1	+6.3	▲1.0	▲2.0	+0.4	+0.8	▲2.7
05/12	+2.7	+3.1	+0.7	+4.7	+6.3	+1.9	+0.1	+2.1	+2.3	+5.0
06/01	+2.8	+5.0	+2.9	+0.7	▲1.2	+3.9	+2.6	+3.9	+5.6	+2.9
06/02	▲1.4	▲1.2	▲0.8	▲1.8	▲0.8	▲3.0	▲0.4	▲4.4	▲5.8	▲2.5

(注) 季調済前月比伸び率。

*1: Industrial supplies and materials

*2: Capital goods, except automotives

*3: Automotives vehicles, parts and engines

*4: Consumer goods, except automotives

	輸出						輸入					
	カナダ	中南米	EU	太平洋工業国		日本	カナダ	中南米	EU	太平洋工業国		日本
05/07	+9.6	+5.3	+10.9	+9.7	+7.9	+3.6	+10.5	+4.2	+11.8	+8.2	+9.1	+2.9
05/08	+14.4	+13.9	+14.8	+6.6	+14.8	+15.7	+14.9	+13.1	+15.9	+12.7	+12.6	+8.5
05/09	+6.8	+10.5	+10.5	+3.5	+2.8	▲0.1	+15.9	+18.8	+14.5	+13.6	+10.6	+3.3
05/10	+7.9	+10.2	+7.6	+4.0	+8.7	▲4.6	+15.4	+20.1	+12.2	+14.5	+12.7	+6.9
05/11	+13.2	+10.4	+12.8	+11.8	+12.5	+9.0	+11.2	+14.1	+13.7	+9.0	+7.2	+2.4
05/12	+11.5	+9.7	+14.5	+7.2	+9.6	+11.0	+13.4	+22.7	+17.8	+4.3	+11.0	+4.7
06/01	+13.6	+11.6	+19.1	+8.0	+15.8	+10.5	+18.1	+20.6	+24.2	+12.7	+12.7	+6.5
06/02	+13.7	+9.3	+15.8	+8.1	+11.8	+10.1	+11.2	+13.5	+16.6	+4.3	+6.0	+6.0

(注1) 未季調前年比伸び率。

(注2) 中南米はメキシコを含む(原統計の「中南米」は含まない)。

657.42億ドルの赤字に縮小

06年2月の米国の貿易収支(サービスを含む国際収支ベース、季節調整済)は、657.42億ドルの赤字(前月比▲4.1%)と、市場コンセンサスの▲675億ドルを下回ったものの、高水準の貿易赤字が持続している。2月は中国の旧正月の影響で輸入が大幅に減少したが、この特殊要因を除けば、前月と同程度の赤字になったと考えられ、依然として貿易赤字縮小の兆しはみられない。

輸出は、消費財、産業資材、自動車を除く資本財、自動車の縮小により前月比▲

1.2%と減少した。一方で、輸入も自動車、自動車を除く資本財、消費財が大幅に減少したことから同▲2.3%となった。原油は輸入量が2億9103.2万バレルに減少したが、価格が1バレル=53.726ドルと上昇したため前月比+11.5%となった。

この結果、1～3月期の純輸出のGDP寄与度は前期比年率▲0.5%程度に縮小すると予想される。

今後も、貿易赤字は高水準で推移する見込み

今後に関しては、ドル実効レート of 緩やかな低下が予想されるが、原油価格の上昇や、内需の堅調持続により輸入の高い伸びが見込まれることから、当面貿易赤字は高水準で推移すると予想される。

貿易赤字を大幅に縮小させるためには、輸入が減少するか、輸出が大幅に増加する必要がある。しかし、輸入を減少させるには、国内の消費を抑制しなければならず雇用の拡大ペースが鈍化、或いは減少し、景気後退に陥るリスクがある。このため、輸入が増加するなかで輸出が大幅に拡大する必要がある。この方法としては、①貿易相手国の輸入障壁の撤廃、②輸出先の米国を上回る高い成長（米国輸入の所得弾性値が貿易相手国よりも高く上昇トレンドにあるため）、③ドル実効レートの減価、が挙げられる。①、②については、貿易相手国の輸入障壁は簡単にはなくならず、また貿易相手国の金融財政政策が米国ほどの柔軟性に欠けるため米国以上の高い成長も期待できない。現状の貿易・経済構造では米国の貿易赤字の大幅な削減は難しいと考えられる。ただ、③ドル実効レートは利上げ継続観測から下げ止まっている。なお、2005年7月21日に元が切り上げられ、管理相場制に移行したが、緩やかな元高にとどまっているため、対中貿易不均衡の解消にほとんど貢献していない。

ドルの上値の重い展開

ドルについては、米国の利上げが後数回続くため金利差が拡大すること、当面大きな金利格差が残ることから、ドル買い需要が残存しよう。しかしながら、原油価格の高止まりや成長率格差によって米貿易赤字が高水準で推移すると予想され、経常赤字が縮小する可能性が低い。このような中、今年には中間選挙の年であり巨額の経常赤字が材料視され易いこと、さらに中間選挙に絡み元切り上げ圧力が強まることから、円には上昇圧力が掛かり易い。また、日本経済の回復感が一段と強まるなか、ゼロ金利政策の解除が視野に入ってくることから、ドルの上値が抑制される可能性が高い（緩やかな円高）。

日本以外の全地域に対する赤字額が縮小

地域別収支では、対中国が▲138億ドル（前年比▲0.2%）と旧正月の影響で前月から赤字額が縮小したが、26ヵ月連続で地域別で最大の赤字国となった（貿易赤字全体の23.6%に縮小）。対NAFTAが▲120億ドル（同+26.7%）とエネルギー関連、消費財等の輸入増加によって赤字額が拡大し高水準の赤字が持続した。対欧州は▲83億ドル（同+6.2%）と高水準の赤字を維持しており、外需頼みの欧州景気を下支えしている。また、対OPECが▲73億ドル（同+17.2%）と原油価格が上昇したが小幅縮小した。対NIESは▲11億ドル（同▲3.7%）と小幅縮小した。一方、対日は▲71億ドル（同+3.6%）と小幅拡大した。

輸出は5ヶ月ぶりの減少

通関ベースでは、輸出は産業資材、消費財、自動車、自動車を除く資本財が減少

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

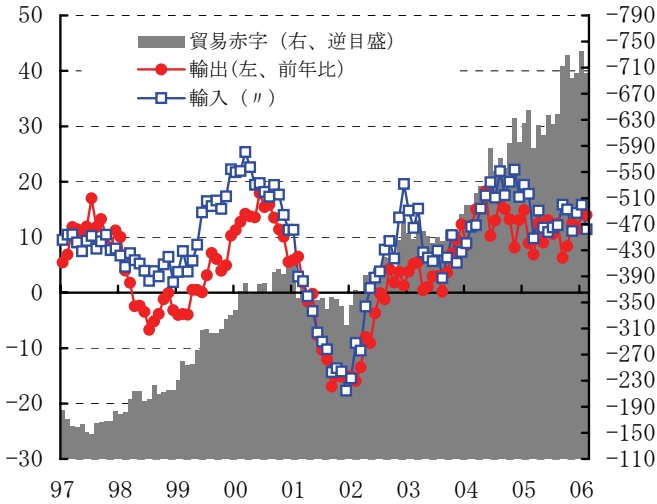
したため前月比▲1.4%と5ヵ月ぶりの縮小となった。また、輸入も自動車、自動車を除く資本財、産業資材、消費財の減少によって同▲3.0%と縮小に転じた。

輸出の商品別内訳では、①資本財は、民間航空機が増加したものの、コンピューター部品、産業機械、医療機器、コンピューター、半導体、通信機器等の減少により前月比▲0.8%と5ヵ月ぶりに減少した。②産業資材は、レアメタル、天然ガス、液化天然ガス等が増加したものの、化学、核燃料、石油製品、金等の減少によって同▲1.2%と5ヵ月ぶりの縮小となった。③自動車は同▲1.8%と5ヵ月ぶりに減少した。④消費財は、アンティーク・骨董品・切手等が増加したが、ダイヤモンド原石、家庭用品、TVなどの減少によって同▲0.8%と2ヵ月連続で縮小した。

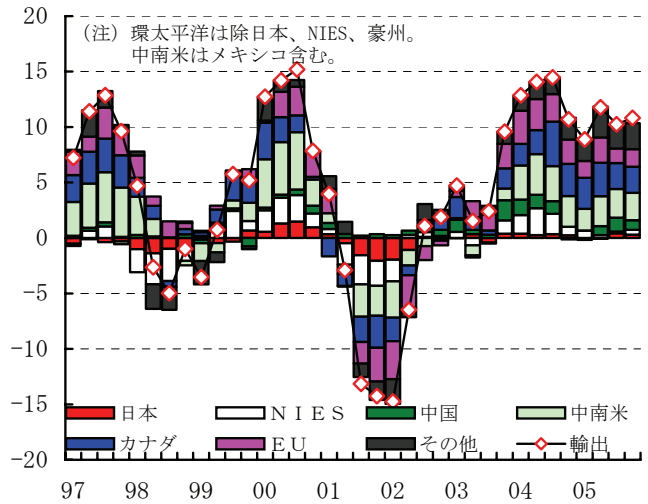
輸入は、自動車、家具・家庭用品等の拡大により前月比▲3.0%と大幅なマイナス

輸入の商品別内訳では、①自動車を除く資本財輸入は、掘削機、民間航空機エンジンが増加したものの、民間航空機、医療機器、通信機器、コンピューター部品、電子機械の減少により前月比▲4.4%と4ヵ月ぶりの減少となった。②自動車は同▲5.8%と5ヵ月ぶりに縮小した。③消費財は調合薬、ダイヤモンド原石、玩具・ゲーム・スポーツ用品が増加した一方、その他の家庭用品、家具・家庭用品、ステレオ、テレビ・ビデオ等が減少したため同▲2.5%となった。④産業資材は、原油、鉄・鉄鋼ミル、天然ガスが増加したものの、燃料油、石油製品、液化天然ガス、核燃料の減少により同▲0.4%と縮小に転じた。

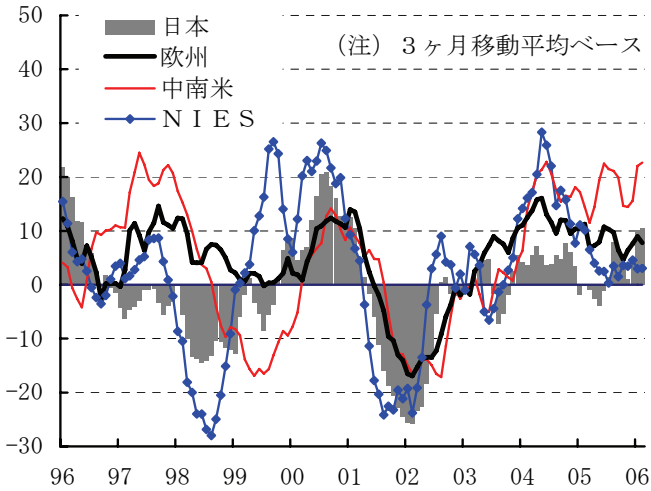
(%) 米国貿易動向 (財、BOPベース)(億ドル)



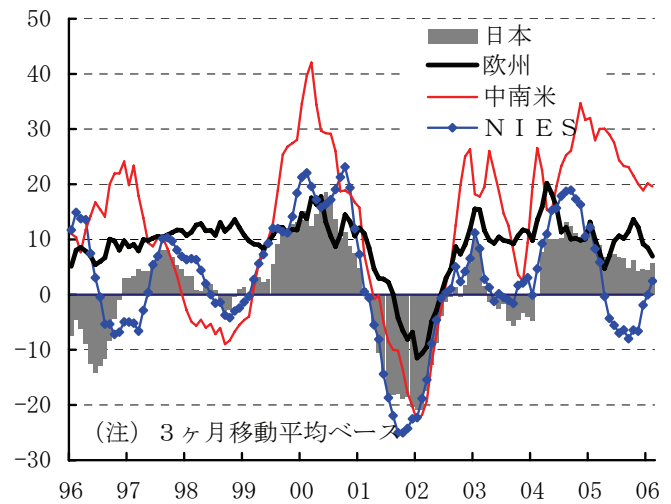
(%) 通関輸出地域別寄与度 (前年比) の推移



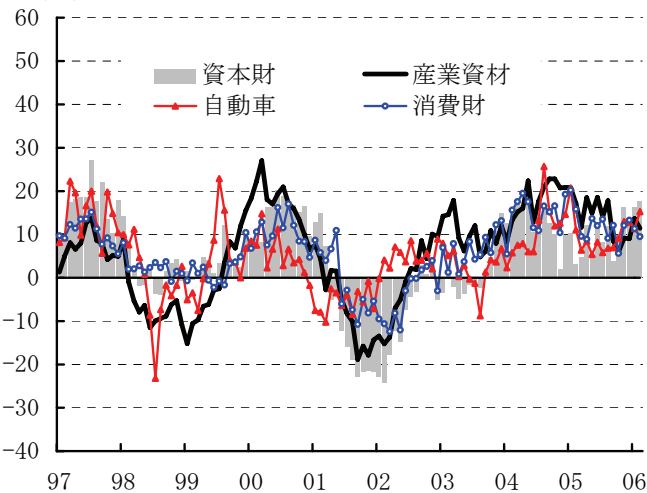
(%) 地域別輸出 (前年比)



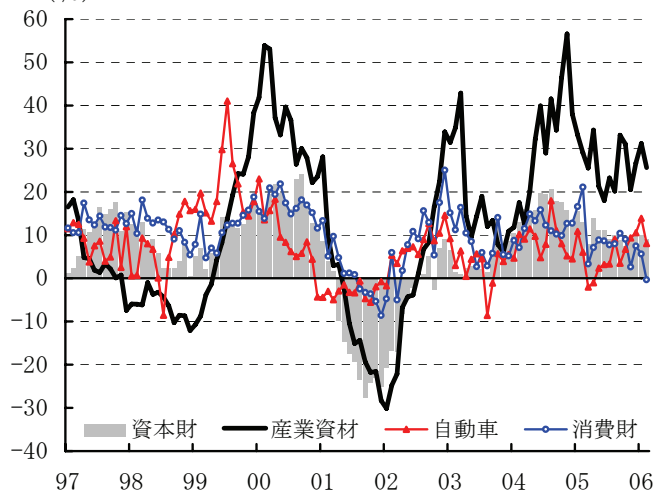
(%) 地域別輸入 (前年比)



(%) 財別輸出の推移 (前年比)



(%) 財別輸入の推移 (前年比)



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。